



◇特集 今一度考えよう「図書館ってどんなところ？」
◇Report えほんのひろばin
きょうと/けやき総会・図書館懇談会

■ 特集 ■

今一度考えよう「図書館ってどんなところ？」

図書館は全ての人に大切なもの よくして行くのは市民

左京図書館が夜に開いてるのも、インターネットで検索、予約ができたり、赤ちゃんに絵本を紹介する日があったりするの、慣れてしまえば当たり前のように思えますが、いずれもここ数年に実現したことでした。

一方、今日本の公共図書館はその存在自体が大変厳しい状況に置かれています。図書館サービスに経費がかかるのなら、有料にしては、という話もあるのです。そういうものかなあ、と思った方、実は違うんです。公共図書館は無料の根拠があります。では、なぜ税金をたくさん使ってまで図書館が必要なのでしょう。図書館は本好きの人が行くところ、私には関係ない、そんな声も聞こえます。

いえ、図書館に関係ない人はいないんです。今一度「図書館ってどんなところ？」と考えてみませんか。6月にけやきが協谷邦子さん（元大阪府立図書館司書、同志社大学嘱託講師、京都産業大学非常勤講師）を招いて開催した講演会報告を通して「図書館ってなんで必要なん？」「大変ってどういうこと」という疑問に応えます。また、けやきがこの半年図書館の意義について考えてきた経緯も紹介します。

● 図書館友の会けやき主催 講演会

市民と本を結ぶ～公共図書館・学校図書館の役割と未来を考える～

講師：協谷邦子さん

「図書館の主人公は市民。市民は図書館に要望を出してよい図書館にする役目がある。図書館を見たら民度がわかる。」そう話される協谷邦子さんは大阪府立図書館で長く司書として活躍されました。今回の講演では現場での豊富な経験を基に、図書館の意義を分かりやすく解説。公共図書館や学校図書館を取り巻く厳しい現状を紹介した上で、私たち市民こそが図書館を支え、そのために声を上げるべきことを訴えられました。

参加者からは公共図書館と学校図書館の意義と問題点が明確に分かったと好評、けやきメンバーはこれまでやってきたことの意味を振り返り、さらにパワーアップする力をもらいました。そんな充実した講演の内容を紹介します。

2010年6月14日 於：左京図書館階上会議室
参加：31名

そんな時は図書館へ！

まず、図書館に関係ない人はいない、使うのは当然の権利、税金を費やして運営されている公共図書館は使わないと損、という言葉にひきこまれた。図書館はただ「本を借りに行くところ」ではなく、人の自立を助ける場所、そして資料と施設を使って人がよりよい人生を追求することを支援する場所であることを具体的に紹介。例えば旅行の計画、進路の情報、病気になった、介護の仕方を知りたい、仕事の企画書を作る、そんなときは図書館へ。そして何もする事がないときも、くつろぐスペースがあり、イベントがあり、人との出会いもある図書館へ。そんな誰にでも役立つ図書館の使い方を分かりやすく話された。

図書館とは何かを知る資料として当日提供された

「ランガナタンの5原則」のうち「図書館は発展する有機体である」を説明されて、図書館の役割は社会の求めに応じて変わりうるもの、かつては勉強部屋だったが、今は例えばホームレスの支援やビジネス支援などもある、誰にでも役に立つ場所とのこと。乳幼児向けのお話会が、大学生が赤ちゃんに出会う機会になったり、母親が子どものあやし方を知る機会になったり、子育て支援の場にもなっている例も印象的だった。

さらに「アメリカ社会に役立つ図書館の12か条」からは「図書館は一人一人を刺激します」の説明として図書館の資料は一律に法律で規制するべきものではなく、ある人にとって不愉快な資料も収められている。情報が遮られると判断はできないわけで、自分と異質なものがあからこそ発展がある、と解説。「図書館は過去を保存」するからその蓄積を土台に発展があ

ランガナタンの5原則*

- 1 本は読まれるためにある
- 2 すべての人にその本を
- 3 すべての本にその読者を
- 4 図書館は利用者の時間を節約せよ
- 5 図書館は発展する有機体である

*インドの数学者・図書館学者ランガナタン（1892～1972）が1931年に著書『図書館学の五法則』で提唱

「アメリカ社会に役立つ図書館の12か条」

- ・図書館は市民に知る権利を提供します
- ・図書館は社会の壁を打ち破ります
- ・図書館は社会的不公平を改める地ならしをします
- ・図書館は個人の価値を尊重します
- ・図書館は創造性を育てます
- ・図書館は子どもたちの心を開きます
- ・図書館は大きな見返りを提供します
- ・図書館はコミュニティを作ります
- ・図書館は家族のきずなを強めます
- ・図書館は一人一人を刺激します
- ・図書館は安息の場を提供します
- ・図書館は過去を保存します

『図書館のめざすもの』（竹内慈訳 日本図書協会）より

る、との説明にも納得した。

司書の役割とは

司書というとカウンターで貸し出しをする仕事、誰でも出来るのでは、と思う人もあるだろうが、簡単な仕事ではない。資料の知識はもちろん図書館全体の仕事や動きがわかっていないと利用者に満足なサービスが提供できない。本を動かすのも人の手なので、肉体的にもきついそう。司書とは資料・情報と人を結ぶのが仕事、本や資料を選び、整理し、配架し、資料を手渡し、本(資料)探しの支援をする、プランナー(企画者)であり、ファシリテーター(推進者)であり、コーディネーター(調整役)でもあると説明された。

今、公共図書館の現場で起こっていること

さきほどの「ランガナタンの5原則」の「図書館は利用者の時間を節約せよ」はまさに司書の仕事で、必要な情報を的確に手渡してもらったり、調べ方、探し方を教えてもらえれば、利用者はとても助かる。これには当然、長年の経験が必要な仕事なのだが、現在図書館司書は、非正規の立場の司書が6割を超えているとのこと。1～3年と期限を切った雇用では安心して働き続けられず、司書個人にも図書館にもノウハウが蓄積されないことになる。また現場の情報を汲み上げて行政に伝え、ニーズの変化に対応したサービスができなくなるとも。

これを改善するには待遇を良くして、経験の蓄積ができるようにする、働く人の声を聞くことを提案された。会場からも図書館勤務経験のある参加者から「アルバイトで3ヶ月、1年で変わってく人には職場教育ができない」という声が上がった。

ところで、今、公共図書館の現場では、業務のアウトソーシング化が進んでいる。質よりコストの時代の波に指定管理者制度で図書館業務を丸ごと民間に委託する動きがあり、現在は公共図書館3,000館のうち140館ほどだが、これが全体の3分の1くらいまで増えると民営化が一気に進む恐れがあるという。

しかし、図書館運営はこれまで官にのみノウハウが蓄積されていたので、民間には十分なノウハウがなく、質の高いサービスはできないのではないか。実際大阪府立図書館が市場化テストを行ったが混乱し苦情が発生した。判定人からは図書館の根幹である選書は公務員でないといけなのかと切り込まれたが、大阪府

立図書館100年の蓄積を理解していないとできないと反論。また利用者が求めている本を的確に提供するレファレンスは経験の積み重ねでしかできない仕事で、民間では大阪府立図書館のレファレンスはできないことは理解された。しかし判定人はコストがかかりすぎる、有料にしてはどうか、という見解。が、図書館法では「いかなる対価も徴収してはいけない」と定められているとのこと。

直営と外部委託の違いとして、直営では、人や資料の流れや、時代の変化を見て、迅速にサービスを変えていける、また、権限もある。一方、外部委託では仕様書に忠実に従うことが求められ、主体性を持たないため、この時代の変化の激しい折、変化に素早く対応できず、また変革の権限を持たない。頭(官)と手足(民)が切り離された形になるので、決してよくはならない。さらにこれまで公共図書館同士がノウハウを教え合ってきたが、民営になれば互いに競争となるので、ノウハウの公開がなくなる、相互貸借もうまく行かなくなるという見解を示された。

参加者からは「指定管理者制度下では決められたことしかできないので、意欲のある人が職場を去る。停滞した職場、サービスになる」という声が上がった。

学校図書館では

グローバル化が進む現代、異文化を理解し、多様な価値観を持った人と共に問題解決することが望まれている。そんな今こそ図書館が必要とされているが、学校図書館の現状は「本がない、場所がない、人がいない」。司書教諭は兼任の場合が多く、大阪では府立高校の司書が切られたとのこと。もっと資料、人を増やすべきとも話された。会場からは学校現場での職員の多忙の実感、ボランティア頼みの現況が伝えられた。

図書館の未来のために連携・連帯の強化を

時代は図書館を求めているのに、図書館そのものには逆風が吹いている。公共サービス基本法には、サービスの質・労働条件も盛り込まれているが、図書館サービスの発展を妨げているのは、働く人の労働条件の低さ。よい労働条件がよいサービスにつながるとのこと。

参加者の感想より

- ・図書館が今こそ必要とされている理由が明確に聞けました。
- ・(図書館は)ただ本を借りに行くだけでなく、調べたり、質問するところだということや、いろいろなところと連携していること、困ったときに行ける場所、その他全然知らなかった意義やお話を聞くことができました。
- ・知らないことが多かった。普段の司書さんの現状を知る機会がなかったので良かった。
- ・委託や指定管理者制度の現状や問題について詳しく知りたいと思っていたので、今日の講演はたいへん貴重でありがたかったです。京都市の図書館や学校図書館も現状は非常に厳しいですが、少しでも打開の道を探って行きたい、そのパワーをいただきました。
- ・今まで知らなかった事がわかり、大変勉強になりました。今後、図書館の利用の仕方が変わると思います。
- ・公共図書館の様子、利用者の持つべき意識がわかった。
- ・小学校で読み聞かせボランティアをしています。図書室の現状をなんとかしたいと思い、何かヒントをとって参加させていただきました。(中略) 私たちも努力すると共

に学校や市にも働きかけて行きたいと思いました。

- ・図書館の原則をどうとどめるのか、国レベルへの働きかけが必要なのではないでしょうか。
- ・住民として図書館を良くして行く努力が必要なのだなと強く思いました。
- ・公共図書館の現状(指定管理者制度への動き)を全く知らなかったのも、よくわかりました。図書館の意義を改めて感じ、どんどん利用して行きたいと思いました。
- ・発展するのも市民の力! 肝に銘じておきたいと思いません。
- ・関心を持たなければ、知らない間に変えられてしまう恐ろしさが分かった。文化に競争は成り立たないという言葉、その通りだと思う。
- ・地域の住民で図書館を支え考えて行くというのは理想であるがむずかしい面がある。「われわれの図書館」という思いは何からわきあがってくるか、どうすればよいのかを考える。例えば寄附を募る、力を労働力を借りる、等はいけないのだろうか。
- ・図書館は住民にとってとても大事なものですが、それを多くの住民が知っているかどうか。友の会のメンバーがそれを知らしめる役目を持っていると思う。

また、図書館は貧困のために情報を十分得られない人を支援することもできる。誰もが使える図書館は虐待や貧困から人を救う可能性もある。鳥取県立図書館では農業支援もあり、農業関連の役所の縦割りではできない様々な連携や参加ができたとのこと。図書館にはどんな本もあるように、健康、ビジネス、法律など色々なところと図書館はつながって行けるというお話に納得した。

最後に、一人一人が幸せになれるような図書館の発展は、住民の力にかかっている。図書館だけが頑張っても解決できないので、住民が声を上げて、図書館の人たちと協力するのが一番力になる。支援をよろしくお願ひしますと締めくくられた。

図書館の問題は自分の問題として考えて、という脇谷さんの言葉を胸にきざんだ講演会でした。(島崎)

● けやきがこの半年考えてきたこと

図書館の未来・活動の未来

永井麻里

公共図書館民営化の動き

私たち図書館友の会けやきの活動も今年で12年目に入りました。この間、京都市図書館が赤ちゃんから高齢者まで全ての市民にとって使いやすいものとなるよう、様々な活動を行って来ました。それは、「公共図書館は、日本国憲法が掲げている国民の生存権や基本的人権の尊重—具体的には学び知る権利を、何人にも保証する最も身近な施設である」と考えているからです。

しかし、昨年活動10周年を機にこの10年間の公共図書館を巡る日本国内の動向を改めて見返してみると、その基本的な存在の意義を危うくするような施策があちこちで実施され広がっていることが目につきました。景気の悪化による税収の減少と行財政の構造改革—公共事業の経費削減が声高に叫ばれる中、図書館運営を民間事業者に委託する自治体がどんどん増えているのです。そしてマスメディアのほとんどが、開館時間の延長やコンピュータ端末の増加といった民営化の利点(多くの公営公共図書館ですでに実施されていたことですが)ばかりを報じています。

このような現状を目の当たりにして、「民営図書館は、全ての国民の知り学ぶ権利を本当に保証してくれるのだろうか?」「そのような民営化が認められるに至った法的根拠は?」など疑問が次々に沸き、今後の活動を支える礎とするためにも、「公共図書館の存在の意義」という原点から再度じっくり学び考えなければと強く感じました。そして知り得たことをみなさんにニュースレターを通してお伝えすることができたらいいなと、昨年末事務局会議で話し合いました。

図書館の存在意義—調べたこと、学んだこと

まず、図書館に関わる法律や制度のこの10年間の改変を調べようと、それらについて述べた雑誌論文を集めました。事務局メンバーのOさんが中学1年生のお嬢さんと二人で最寄りの京都府立図書館へ行き、『図書館雑誌』と『図書館界』の2000~2009年のバックナンバーから30タイトル200ページ余りをコピーして来てくれました。しかし、それらを何度みんなで読み合っても悲しいかな専門雑誌の研究者の論文を十分に理解することはできず、ましてやそれをニュースレターで紹介するなんてとても大それたことだと言うことがよくわかり、3月に予定していたニュースレターの発行を断念しました。

今回の脇谷邦子氏講演会の企画は、以上のような経緯のなかで生まれたのです。また、講演会を準備する傍ら、5月には事務局メンバーの図書館学研究者岩崎れいさんに講師をお願いして2008年6月の図書館法改正についての学習会を開き、改正の要点と課題について学びました。

こうした講演会までの試行錯誤の学習の中でも、確認することができたり感じたりしたことが、いくつかあります。まず、「図書館の民営化」の法的根拠は、主に2000年代前半に次々と制定された「公共サービスの市場化」を促進する地方自治や経済に関わる法律や政策であること。その後、2006年に民営化の流れを加速させる「競争の導入による公共サービスの改革に関する法律」(略称「市場化テスト法」)が制定されましたが、2008年に図書館法が改正された際には国会で

「社会教育施設の利便性向上を図るため、指定管理者制度の導入による弊害についても十分配慮して、適切な管理運営体制の構築を目指すこと」が付帯決議され、2009年に成立した「公共サービス基本法」では、〈国および地方公共団体は安全かつ良質の適切な図書館サービスを実施する責務を負っている〉と規定されていることも知って、図書館への指定管理者制度の導入に一定の歯止めがかかったかと思われました。ところが今度は、昨秋来新政権が華々しく執り行い地方自治体でもあちこちで行われるようになった「事業仕分け」の過程で、滋賀県草津市の南草津図書館など「指定管理者制度」の導入が決まった図書館が出て来たのです。京都市でも「京都市民間提案型市民プロジェクト」に基づき民間事業者から図書館運営に係る提案がありましたが、審査結果が「C評価」であったので今年度の採用は見送られたとのこと、全く油断がなりません。

また、新図書館法には「社会教育における学習の機会を利用して行った学習の成果を活用して行う教育活動その他の活動の機会を提供し、及びその提供を奨励

すること」との項が新設されました。私たちの図書館友の会活動はあくまでも自発的に立ち上がったものですが、このように法律に明記されると、市民にとって当たり前学ぶ権利を行使した対価として図書館での奉仕が義務づけられているようで、とても違和感があります。学習の成果を市民同士で分かち合うことは、あくまでも自発的主体的に図書館に限らず様々な場で行われてこそ、実り多いものでしょう。

私たちが声をあげてこそ

そして何より強く感じたのは、こうした公共図書館の変質に関して我々市民が得ることが出来る情報は非常に少なく、その結果市民の図書館への関心もなかなか高まらないということです。もともと日本では市民運動の成果として勝ち取られた公共図書館はそれほど多くはありません。学校教育の中でも憲法の意味を身近な公共図書館・学校図書館の存在と結びつけて学んだ経験を持つ人は少ないでしょう。私たちの望む公共図書館の未来に向けて、これからもみんなで力を合わせ、ともに学び声を挙げ続けて行きたいものです。どうかみなさんのお力をお貸しください。

けやきの活動 09年11月～10年7月

11/14 第9回おとなのための語りを楽しむ会	4/20 「えほんのひろばinきょうと」で使用 する書架（面展台）10台作成	・11/28.1/23.2/27.3/27.5/22.6/26 （第4土曜） 図書館おたのしみ会に協力
11/30 ニュースレターNo.32印刷・発送		
11/ 京都府家庭文庫地域文庫連絡会 機関誌「京庫連だより」に「図書館友の 会けやきが活動10周年を迎えました」を 寄稿（永井）	4/23 「えほんのひろばinきょうと」の 絵本の読み合わせ会 4/24 「えほんのひろばinきょうと」 面展台搬入	・11/27.12/11.1/22.2/26.3/12.4/23.5/28.6/25. 7/9 （第4金曜日、3.7.9月は第2金曜日） 絵本学習会 ・11/9.12/8.1/8.2/1.3/1.4/5.5/10.6/7.7/5 （主に第1月曜）
12/8 冬のスペシャルお楽しみ会リハーサル	4/25 「えほんのひろばinきょうと」 開催	
12/19 冬のスペシャルお楽しみ会	5/10 図書館法に関する事務局学習会	事務局会議
2010年	5/17 総会・図書館懇談会の案内、活動報告	図書館とのミーティング
2/9 図書館に関わる法律についての 事務局学習会	6/10 講演会資料等印刷	・11/5.12.19.26 12/3.10.17.24 1/7.14.21.28 2/4.18.25 3/4.11.18.25 4/1.8.15.22
3/上旬～「えほんのひろばinきょうと」準備	6/14 協谷邦子さん講演会	5/6.13.20.27 6/3.10.17.24 7/1.8.15.22
3/12 「赤ちゃんに絵本を」サポーター ミーティング	第12回定期総会 第6回図書館懇談会	（毎週木曜日10:30～12:00） 絵本コーナーで「赤ちゃんに絵本を」
4/5 子ども読書の日記念事業チラシ印刷配布	6/中旬～ ニュースレターNo.33	サポーター活動
4/中旬～ 総会・講演会準備	原稿作成・編集 （図書館主催行事には協力）	

左京図書館 子ども読書の日記念行事

えほんのひろば in きょうと

2010年4月25日

今年の左京図書館の子ども読書の日記念行事の一環として「えほんのひろばinきょうと」が開催されました。左京図書館階上の会議室いっぱいに絵本にひたれる空間が出現しました。

330冊の絵本が部屋いっぱいに

えほんのひろば in きょうとを終えて

城野裕紀子



4月25日(日)、左京図書館の子ども読書の日記念行事の一つとして「えほんのひろば」をけやきが提案・企画・実施しました。

この「えほんのひろば」は、面展台(絵本が表紙を見せて置けるダンボールで作った棚)に絵本を展示し、勝手に読むなり、当日会場にいるボランティアに読んでもらうなりして、絵本に囲まれて、自由に時間を過ごしてもらうものです。

当日20数台の面展台の上に330冊余りの絵本を置き、常時5名前後のボランティアが待機していました。面展台を使うと一目で会場の本が見渡せるので、図書館の職員の方もけやきのメンバーもこれで300冊以上あるの???とびっくりされていました。

選書担当の私としては、①「次は何読もうかな」と思えるような本、②今まで絵本に縁のなかった人、絵本は子どものものと思っている大人にも楽しんでもらえる本、ということを念頭に置いて揃えました。

『だるまさんが』(かがくいひろし プロンズ新社)
『まめうしくんあいうえお』(あきやまただし PHP)
『あっちゃんあがつく たべものあいうえお』(さいとうしのぶ リーブル)などは読み手と聞き手が一緒になってワイワイ楽しんでいるようでした。『ズーム』(パンニヤイ ブッキング)『アルマーニ』『カルチョ』(マリオッティ ユーシープランニング)など字のない本では「なにこれ」「へ〜」という感じでページをめくり、『つるによぼうう』『スーホーの白い馬』(赤羽末吉 福音館書店)では、じわあつと。そんな感じで絵本の世界を楽しんでいるようでした。大人の方たちは、物語絵本もさることながら、『いきものアート

蛙』(内山りゅう ジュリアン)『チクッとしたやつ のずかん』(グリーンウェイ リブリオ)といった写真絵本に見入っているのが目につきました。子どもとお母さんにつき合ってきたものの、どうしようという感じのお父さんに『象虫』(小椋山賢二 出版芸術社)を渡したところ、えらく気に入った様子で、見終わった後、「これおもしろいぞ」と息子さんと一緒に見ていはったのが印象に残っています。選んだ絵本の中には命を考えるきっかけになればと『かまきりっこ』(近藤薫美子 アリス館)や『いわしくん』(菅原たくや 文化出版)を入れ、異文化を感じてもらえたらと『スニちゃんどこいくの』(イ・テス 平凡社)『アフリカの音』(沢田としき 講談社)を入れ、いろんな本との出会いをもくろみました。

数年前に大阪で「えほんのひろば」に出会い、京都でも思っていました。周りに本がない、本や図書館は必要でないと思っている人たちと本を繋げるには、「えほんのひろば」は有効な手段ではないでしょうか。けやきのメンバー中心に面展台作りから始め、図書館には300冊余りの絵本の準備をお願いしました。読み手も数人は確保しなければならない行事です。話や写真の説明だけではなかなか伝わらない企画ですが、本に親しむ子どもたちの底辺を広げたい、という思いにみなさんが賛同してくださいました。アンケートには「またこのような企画をしてほしい」という意見が多くありました。今回参加された方からの意見を反映させ、もっと楽しい「えほんのひろば」になって、あちこちで開催できたらいいなあと思います。

TOPICS

中学校図書委員による

本の紹介ポスター展示 2月13日～3月8日

今年度は新型インフルエンザの影響で学校の予定が大幅に変更になったそうで、年度後半はどの中学校も多忙を極める中、左京図書館からの呼びかけに応じて、近衛中学（3年連続）、岡崎中学、高野中学（ともに初参加）が参加。中学生がポスターで紹介してくれた本の現物も展示されました。中学生のフレッシュな目で選んだ本の紹介で、来館者も刺激がもらえました。出展してくれた中学生やその周囲の方々にも左京図書館を身近に感じてもらえるこの行事が続いて行ってほしいと願います。

ヤングアダルトコーナーができました

2月13日から、左京図書館に待望のヤングアダルトコーナーがカウンター前にできました。2009年3月発行のニュースレターでも特集したように、中高生世代向けサービスの強化を長年要望してきたけやきとしてはうれしい限りです。設置の思いを司書さんから寄稿頂きました。

「YA（ヤングアダルト）10代のためのコレクション」コーナーについて

2月からYAコーナーを設置しました。YAとは、中学生・高校生を中心とした年齢層を指します。この年齢層は、大人でも子どもでもないあいまいな時期のため、適する本が児童と一般の両方の書架に分散されてしまっています。そこでコーナーを設けて、本を選びやすくしました。一般の書架と児童の書架の間の位置で、よく目立つように、両面ブックトラック1台をカウンターの前にしています。ふらりと図書館を訪れた中高生に、面白そうな本があるなあと手に取ってもらえるようにと考えました。

本は大部分が元から所蔵していたものです。YAコーナーに置いたほうがよく利用されそうな本で、なるべく新しく、時代に合った本を集めています。すでに人気のある作品やライトノベルは、YAコーナーに置かなくても読まれるので、あえて選んでいません。現在約400冊あり、半分以上が常に貸し出されています。中高生だけでなく、小学生や大人の利用も多いようです。

まだ試行錯誤の段階ですので、こんな本をいれてほしいなど、ご提案がありましたら、ぜひ職員までお声かけください。
(左京図書館 西垣)

子ども読書の日記念 おたのしみ会

今年度は4月17(土)・22(木)・24(土)日に開催。養正小学校図書委員さんと養正乳児保育所・養正保育所の先生方は昨年引き続きの参加、今年度は更に修学院小学校PTAサークルおはなしきらら隊と子ども文庫やかまし村のみなさんの出演もあり、たのしいおはなし会が3回も開かれました。

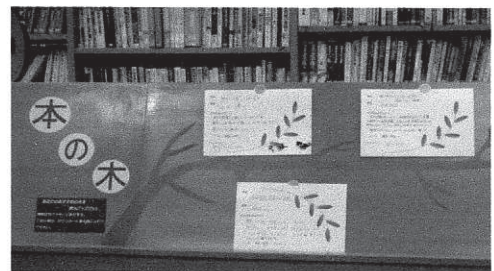
左京ボイスに

移動図書館巡回日程が掲載に

移動図書館「こじか号」は1ヶ月に1回巡回。左京区では広河原、花背、鞍馬、市原野、静原、大原、八瀬、上高野、修学院に13カ所の拠点があります。今年度から、左京ボイス（市民しんぶん左京区版）に巡回日程が掲載されるようになりました。これまでは利用した時に次回の案内をもらうか、インターネット上で確かめるしかなかったのですが、左京ボイスで日程がわかると初めての利用でも便利ですね。京都市図書館のカードがあれば誰でも利用できます。

左京図書館より

「本の木」の取り組みを紹介します



京都市図書館では、利用者におすすめの本を葉っぱに見立てた用紙に記入していただき、木に貼り付けて「本の木」を育ててゆく取り組みをしています。左京図書館では大人用と子ども用の用紙を、それぞれ作成しています。

そして、子ども用は本棚に見立てた掲示板（児童コーナー窓際）に、大人用は新着図書のある棚に木の枝の絵を描いて、それぞれに貼り付けて掲示しています。今は子ども用が積極的に利用されています。皆さんも、ぜひおすすめの本を教えてくださいね！

投稿をお待ちしています。（左京図書館 山口）

図書館の存在の大切さをアピールする年に

図書館友の会けやき総会と図書館懇談会

2010年6月14日

2010年度けやき総会

脇谷邦子さんの講演会に引き続き、左京図書館横山館長と左京区社会福祉協議会吉田事務局長を来賓にお迎えし、2010年度けやき総会を開きました。

まず、09年度の活動テーマ「京都市図書館再点検」に沿った活動報告と会計報告を行いました。けやきがここ10年の間京都市図書館や左京図書館に対して行ってきた提案要望・協働活動を点検・確認。その中で、公共図書館そのものが社会状況の変化の中で存続の危機に立たされていることを痛感しました。そこで今年度は「図書館の存在の大切さを広くアピールする」というテーマの下に活動することが提案され、本年度の活動方針、予算、活動計画が承認されました。

ニューズレターをより広範な方々に読んで頂くため、インターネットのホームページを開設する作業は今年度こそ実現するように、また市内14ヶ所のコミュニティセンター内学習施設図書室（09年より休室中）の利用について、京都市図書館との連携等をけやきが提案できないか検討することになりました。新しい入会案内を作成して広く仲間も募り、図書館の大切さを伝えて行きたいと考えます。このようなけやきの活動へのみなさんの参加をお願いすると共に、ご意見も是非お寄せください。

図書館懇談会

総会の後、今回で6回目となる図書館とけやきの懇談会が開かれました。

まず最初に、横山館長と西垣司書に左京図書館の利用状況や課題を報告していただきました。

〈横山館長〉

・京都市全体で貸出冊数は昨年度783万冊、前年比9.3%増と右肩上がり。左京図書館はその内約50万冊（1日当たり1,800冊）を占め、京都市図書館では5位。予約数は13万3,000冊（1日当たり470冊）で京都市図書館では3位。インターネット予約が多く、全市のインターネット予約の10%を占める。貸出冊数は平日で多い日は2,500冊、返却は2,400冊。利用が増えているのはうれしいが、これらの処理に追われてサービスが行き届いているか心配している。図書館の2連休後は特に返却本の処理が多く、こ

の日に当たることのある「赤ちゃんに絵本を」サポーター活動の様子をあまり見ることができず心苦しい。

・予算は資料費が全市で20%減、左京図書館は15%減、金額にして100万円弱の減。限られた予算から購入するので、選書に益々大きな責任があると考えている。

・2月からヤングアダルトコーナーを開設（7頁参照）。中高生だけでなく大人の利用もあり好評。

・4月からは「本の木」の取り組みも（7頁参照）。今のところ子どもの参加はあるが大人の参加はこれからか。

・左京図書館に来てよかったと思うのは、けやきやボランティアのみなさんに支えてもらっていること。

〈西垣司書〉

・リクエストを担当している。大変多く寄せられ、予算も限られていて購入できないことも多い。予算削減のためTRCの年間予約制度での購入（100万円分）をやめた。このシステムだと本が早く入る利点もあったが、今後は全て自分たちで選んで購入していく。

・予約も多い。人気小説だと1,000人待ち（1年待ち）という本もある。

・雑務に追われて（図書館や資料について）勉強する時間がないのが悩み。

その後参加の利用者からは以下のような発言がありました。（◆利用者）

◆業務が手一杯なのは、左京区の図書館のニーズに対して、現図書館の規模が小さすぎるからでは？

〈館長〉左京中央図書館、あるいは左京にもう1館というのは今の所100%無理です。今の左京図書館をどうしていくべきか、という観点から考えています。

◆地域によって利用にばらつきがあるのなら、人員の増減をして利用者のニーズに応えるべきでは。

〈館長〉現在のスペースの中で利用者のニーズに応えられる改善を工夫している。改善できそうなことには増員を依頼しています。

◆返却ボックスに返すと職員さんの仕事がとても増えるんですね、カウンターに返すことで、もっと他の仕事をしてもらえる時間を作る助けになりますね。

〈西垣〉予約でいうと1割程度が取りにこられないまま流れてしまう。取り置きスペースと労力がもったいないなあと感じます。

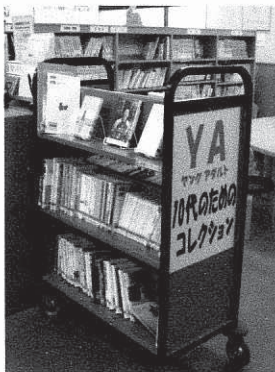
◆予約が多いのは現物の本が館に少ないということでは？
〈館長〉当館の利用者のニーズの規模に合っていないのが現状です。左京図書館用に貸借業務だけをするコーナーをどこかに作ればという意見もあるが物流や人員の問題が出てきます。返却ポストを地下鉄沿線にもう一つ設置という動きはあります。

◆距離的に図書館に来づらいからインターネットで予約する人が多いと感じている。山間部だけでなく、左京区南部にも移動図書館のニーズはあると思う。／府立図書館が児童サービスをやめてから、その周辺は児童サー

ビスの空白地帯になっている。

◆ヤングアダルトコーナーの本は使いやすく、子どもに安心して読ませられる。

〈西垣〉一般書架の本からもヤングアダルト向けに選んでまとめています。本を出してもすぐからになり、どんどん追加しています。チャレンジ



好評のヤングアダルトコーナー

体験中の中学生を見に来られた先生が感心して下さったことも。

その他小学校や中学校との連携、絵本コーナーの本の配置の仕方などについて意見を交換しました。

左京図書館は京都市図書館の中でも特に忙しいところにも関わらず、職員さんがいつも笑顔で丁寧に接して下さいます。これからもさらに利用しやすい図書館となるよう利用者ができることも考えながら、よい図書館にしていきたいですね。図書館のみなさん、これからもどうぞよろしく願います。(まとめ：島崎)

＜追記＞

懇談会の後、絵本コーナーの絵本の配列について司書さんたちで検討して下さい、翌週には「できるだけ本の大きさを揃えてデコボコがないよう並べタイトルを見やすくする」「乗りもの絵本・科学絵本・昔話絵本はラベルの下にそれぞれ決められた色のシールを貼って見つけやすくする」といった改良が行なわれていました。

懇談会の成果が早速に具体的なものとなり、とてもうれしく思いました。(永井)

けやきの 本棚 33

私の
おすすめの本

時をかける少女

筒井康隆作

角川つばさ文庫 09年

割れた試験管の中にはいつか液体のかすかな甘いにおいが和子の嗅覚をおそい、和子は意識を失いました。理科室で起こったその事件から和子は不思議な力を持ちました。私は、和子がトラックにひかれそうになつた時とてもドキドキしました。いつも一緒だった未来から来た深町君と別れなければいけない和子が、かわいそうでした。でも、きつといつか和子が深町君と再会できるような気がしました。

(養徳小6年・加藤綾羽)

思い出のマーニー上・下

ジョーン・ロビンソン作

松野正子訳

岩波少年文庫 95年

悲しみから孤独の中で生きていく主人公のアンナ。ある日マーニーと不思議な出会いをする。2人が過ごした日々はアンナの空想だったのか？心模様が丁寧に描かれていて、作者の「思い出」が綴られているので

は？とさえ思わせる。児童文学の魅力を教えてくれる本。読み終えた後が、何とも良いのです。(下鴨・会員・かもめ)

ほんとはこわい

「やさしさ社会」

森真一著

ちくまプリマー新書 08年

「現代社会では、やさしさが人間関係のルール」となっていると、著者は考えます。「やさしさ」は一般的には善いことです。ところが、それが逆に「こわさ」をもたらすという現象が起きていくのです。本書では、なぜ「やさしさ社会」が「こわい」のかを、多くの具体例をあげて説明し、どうすればもつと気楽に生きられるのかを考えさせてくれます。

(左京図書館・M)

あなたと読んだ

絵本のきろく

柴田幸子著 石風社 10年

長年地域で読み聞かせ活動をしてきた著者が、活動を通して子どもの本や読書環境、図書館、学校図書館の想いを綴ったエッセイ。単なる本の紹介にとどまらず、図書館がどうあるべきか、利用者の立場から述べられている。先日の脇谷邦子氏の話されたこととまさに一致して、共感と示唆に富む内容となっている。(右京・会員・諸岡弘)

☐☐☐ 図書館友の会 けやきの仲間になりませんか ☐☐☐

知りたい、調べたい、本の世界を楽しみたい
そんな私たちの望みをかなえ、
一人一人の世界を豊かにしてくれる場所。
それが私たちの願う図書館です。

左京図書館が今後もこのような市民みんなの図書館としていき
いきとあり続けるために、私たち市民利用者は何ができるのか
考え、活動したいと1999年に「けやき」立ち上げました。
図書館のスタッフとともに、左京図書館はじめ京都市図書館を
支え、育てていきます。

次のような活動をおこなっています

であいの森

左京図書館のおたのしみ会（毎月第4土曜日11:00～）に協
力。絵本を読んだり、ブックトーク・人形劇やおはなしも。
「赤ちゃんに絵本を」サポーター
毎週木曜日10:30～12:00、左京図書館絵本コーナーで絵本探
しのお手伝いをしたり、絵本を読んだりしています。

誰もが利用できる図書館を考える

図書館の現状を調べたり、図書館に提案をしています。

ニュースレター編集部

友の会のニュースレター「けやき」を作成し、図書館と利用
者を結ぶけやきの活動の情報を発信しています。

事務局

けやきの活動の企画提案。図書館行事に企画・協力。
各グループ間や左京図書館との連絡調整を行っています。

絵本学習会

毎月第4金曜日10:00～。取り上げた絵本をみんなで読み合い
語り合う楽しい学習会です。

講演会・学習会

主催または図書館との共催で年に数回、地元の講師を中心に
様々な興味深い講演会・学習会を行っています。

ぜひ、あなたの図書館への思いをかたちに、
けやき の仲間になってください。

◆入会希望の方は、年会費500円をそえ下記事務局または郵便振込口座に
お申し込みください。

事務局 京都市左京区高野東開町1-23 26-101 永井方
TEL/FAK 075-721-2625

郵便振込口座 口座番号 00920-8-156914番
口座名称 図書館友の会 けやき

年会費はニュースレターの印刷および郵送料の一部に充当します。

◆活動費のカンパも歓迎します。直接又は上記の振込口座をご利用下さい。

けやき情報板

左京南支部小学校

読み聞かせ交流会

9月6日(月)

講義「絵本入門」 中川あゆみさん

9月10日(金)

講義「絵本の選び方・読み方」

左京図書館司書さん

ブックトーク

「科学の本のブックトーク」

島崎真紀子さん

9月17日(金)

小グループにわかれて

絵本の読みかたりの実践交流

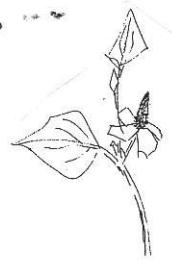
いずれも午前10時～12時

左京合同福祉センター内

左京図書館の上階3階会議室にて

◆絵本の読みかたりを始められたばかり
の方も、ベテランの方も、楽しく学び交
流しましょう。

◆小学校以外で活動しておられる方、活
動はしていないが絵本に興味がある方も
定員に余裕があればご参加いただけま
す。左京図書館やけやき事務局にぜひお
問い合わせください。



編集後記

再京に緒書テのは子か財さ▽とて演う館てくい成民▽
開都一に室イが歩をと産れ新が行会れが十ない感活け
し市度よにしい連思をるしでくでしよ年るなで動や
て児数はセチてれい何中いきエはいく余、しのき
欲童時通我ンバ行たまと、施まネこもな、そこよの
し回間つがタンけ大すか既設しルれのっ少んううりよ
い書の子。る人。活存のたギかでてしなす。がう
で室開いものコとに子かの建。いらすいず声れこいな
すと室ま友学ミこはどせ京設をも。くつをばうの手
。しかした習ユろ、もな都がをも。今手でよもな一弁
(らたち施二に図やい市絶(らを回応もげつつ当
りぜで。と設 あ書幼も民望(き)う上のえ図続とたはの
)ひも週一図 る館いのの視)こげ講は書けよら達市

◇**けやき** 第33号 2010年8月2日

◇制作 図書館友の会 けやき ニュースレター編集部

題字 高野のYさん タイトルバック 岩倉のSさん
カット 高野のHさん

◇発行 図書館友の会 けやき

京都市左京区高野東開町1-23-26-101永井方
TEL/FAX 075-721-2625